

\* 特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト \*

NO.	名称	数量	年代	所蔵
弥千代の雛と婚礼調度				
1	やちよ ひな 弥千代の雛	1対	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
2	やちよ ひなどうぐ 弥千代の雛道具	85件	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
3	やちよ かご 弥千代の駕籠	1棹	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
旧家の雛				
4	ひなだんかざ 雛段飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(加納基弘氏寄贈)
5	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(個人寄贈)
6	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)
7	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(藤野金七・林弥家伝来資料・家元幸子氏寄贈)
8	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(青柳和子氏寄贈)
9	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年(1900年)	本館蔵(山本高嗣氏寄贈)
10	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(山田米子氏寄贈)
11	まめびな・みつおりにんぎょう 豆雛・三折人形	1揃	江戸時代末期	個人蔵
12	いちまつにんぎょう 市松人形	1揃	昭和時代初期	本館蔵(平居圭子氏寄贈)

## 写真解説

\*番号は作品リストの番号と一致します。

### 1 弥千代の雛 一对

男雛 高30.6cm 女雛 高24.7cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

雛段などに立てかけて飾る立雛という種類の雛です。衣装は紙製で、室町時代頃の形式の装束となっており、男雛は小袖と袴を着け、女雛は小袖に細帯を締めています。まるで団子に目鼻をつけたかのような顔は、次郎左衛門雛という雛の形式に則ったもの。あどけない顔立ちが愛らしい一对です。



### 2 弥千代の雛道具 一揃 (写真はその一部)

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶や三棚、挟箱など85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模して詠えられました。井伊家の家紋である橘紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅枝の模様が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



### 弥千代の雛道具のうち 碁盤・双六盤

碁盤 高9.2cm 双六盤 高7.3cm

日本で古くから楽しまれてきた遊びである碁と双六で用いる盤。碁は、白黒のコマを交互に並べ、地を広く占めた方が勝ちとなる遊びで、双六は、2個の賽を振り、出た目の数だけ白黒のコマを進め、早く相手の陣に入った方が勝ちとなる遊びです。

碁盤・双六盤は将棋盤と揃いで「三面」と呼ばれます。三面は、女性の教養を育むにふさわしい遊技具とされ、江戸時代には、婚礼調度の定番となりました。弥千代の雛道具においても、当初は三面揃であったと伝わります。

写真上：碁盤 下：双六盤



### 弥千代の雛道具のうち 駕籠・長柄傘

駕籠 高31.5cm 長柄傘 高45.0cm

弥千代の婚礼調度として伝わる駕籠と長柄傘のミニチュアです。駕籠は黒漆塗に豪華な金蒔絵が施された女乗物と呼ばれるもので、高貴な女性専用の乗り物です。黒漆塗に金蒔絵で橘紋と松竹梅の様子が表わされています。実物に比べると、横幅が狭いやや縦長の形であり、大きさは約3分の1。随所に銀の飾金具が施され、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。長柄傘は、日よけ、雨よけのために差し掛けるものです。

この展示では、実物の駕籠も展示します。実物と見比べることで、ミニチュアの精巧さをじっくりご覧いただくことができます。



### 3 やちよかご 弥千代の駕籠 1 棹

縦82.3cm 横112.2cm 高106.5cm

江戸時代後期

本館蔵（井伊家伝来資料）

弥千代の婚礼調度として調べられた駕籠です。黒漆塗に井伊家の家紋の橘紋と、松平家の家紋の葵紋が、松竹梅の模様とともに金蒔絵で表わされています。随所に飾り金具が付けられ、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。



### 7 こきんびな 古今雛 一对

男雛 高44.5cm 女雛 高43.4cm

江戸時代末期

本館蔵（藤野金七・林弥家伝来資料）

男雛と女雛の一对。公家風の衣装をまとう内裏雛（だいりびな）の一種で、江戸時代明和年間（1764～1772）に江戸の人形師原舟月（はらしゅうげつ）が創始した古今雛（こきんびな）と呼ばれるものです。造作は、細部までよく整えられており、目元や口元、髪の毛の生際などを描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。



女雛



男雛

### 9 ひなごてんかざ 雛御殿飾り 一揃

高64.5cm

明治33年(1900年)

本館蔵（山本高嗣氏寄贈）

紫宸殿を模した御殿の中に男雛と女雛、官女を、御殿の周りには隨身や仕丁などを配した雛御殿飾りの一揃です。雛御殿飾りは、江戸時代の末頃から盛んに行われるようになり、明治時代に広く普及しました。

この御殿飾りは、明治33年(1900年)3月に生まれた千代という女性の初節句のために、京都で製作されたものです。御殿は大振り（おおびり）で、飾り金具をあしらった葺戸（しとみど）や房飾り（みす）の付いた御簾（みす）など、細部まで丁寧に作り込まれています。明治期の雛飾りを今に伝える貴重な優品です。

